

ニューイングランド便り 2018年

ニューハンプシャー州マンチェスター市

沼倉研史

今年も恒例により米国ニューイングランド地方の町をご紹介します。今年にはニューハンプシャー州で最大の人口を誇るマンチェスター市 (Manchester) です。州で最大と言っても11万人程度ですからたいしたことはありません。1910年の人口が約7万人だったとのことですので、100年で約1.5倍に増えたこととなります。この四半世紀でも緩やかに人口は増えています。ニューハンプシャー州全体の人口が約130万人ですから、1割強の人口がマンチェスターに集まっていることとなります。ニューハンプシャー州は南北に長い少し歪な三角形ですが、人口の大部分は南側4分の1、それも中央部から南東側の大西洋岸に近い方に集中していることとなります。人口が州で最大と言っても、州都ではありません。州都はマンチェスターから少し北に位置するコンコルド (Concord 人口4万3千人) 市です。マンチェスターは州都 (キング) ではないので、ニックネームでクィーンシティと呼ばれることもあります。



米国ニューハンプシャー州の位置 Hillsborough 郡と Manchester 市

マンチェスター市の面積は約90平方キロメートルですから、千葉県の船橋市と同じくらいです。マンチェスターは Hillsborough 郡の北東の端に位置し、東側には高速93号線が南北に走っていて、これを南下すれば、ボストンまでは1時間足らずです。市の南側には、州内唯一の国際空港である、マンチェスター空港があり

ます。ボストンまで近いので、飽和状態で混雑するボストンのローガン空港の代替空港として、一時はかなり売り込んでいましたが、最近ではだいぶトーンダウンしています。

マンチェスターは、ボストンまで1時間足らずの距離で、マサチューセッツに比べて不動産の価格が安いので、ボストンのベッドタウンとしての性格が強くなっています。州の規則で、新規の宅地を開発する際には、最小区画が1エーカー（約1600坪）以上と決められているのだそうで、これにかなりの大きさの家があっても、日本円で3～4千万円で購入することができます。最近では、マンチェスターあたりに大きな敷地のホームオフィス兼自宅を構え、ボストンの本社には月に2、3回だけ出かけるという生活スタイルを選ぶ人が増えているようです。何しろニューハンプシャー州は、湖が多く、山も海もありますから、アウトドアライフを生活の中心にしたい人々にとっては、最高の立地と言えます。おまけにボストンのような文化的な大都会へのアクセスも良いのですから、これ以上望むこともないでしょう。

マンチェスター市の前身である **Derryfield** が組織化されたのは1751年のこととのことです。ニューイングランドの中では比較的新しい町といえます。それでも、合衆国独立の前ですから、それなりの歴史の重みがあります。19世紀に入ると、町の西側を流れるメリマック川の水運を活用した紡績業が起り、未曾有の大発展を遂げることとなります。一時は、綿製品の世界最大の生産量を誇ったのだそうです。その遺構は現在でも、残っていて、メリマック川の両岸には大きなレンガ造りのビルと高い煙突が林立しています。これらの建物は、現在では内装を変え、洒落たオフィスビル、養護施設などに変わっています。当時は、綿製品を、メリマック川を使って、大西洋に運び出し、世界中に輸出したのです。ちなみに、メリマック川が大西洋にたどり着く少し前に位置するのが、私が住んでいる **Haverhill** 市です。

さすがに人口が十万を越える都会ですから、見るべきところはたくさんあって、その全てを紹介することはとてもできませんので、町の中心部をかいつままで紹介することにいたします。マンチェスターの市街はほとんどが19世紀の建物で構成されています。これは中心街のレンガ造りの建物ばかりでなく、郊外の木造住宅にも言えることです。ただ、百数十年前の建物をそのまま使っているのではなく、外

装、内装共手を加えています。それでも、建設当時のイメージをできるだけ残すように配慮しているようです。

まず市の中心で目につくのは、**Manchester Cultural District**（文教地区？）と呼ばれる広大な地域です。中央に大きな緑地 **Victory Park** があり、それを囲むように、図書館、劇場、博物館、教会などの建物が並んでいます。また、大きな美術館が6つほど点在しています。



手入れが行き届いた **Victory Park**

マンチェスター市はメリマック川の河岸段丘に建設された町ですので、坂が多いのですが、市街地は住宅地域も含めてほぼ碁盤の目状に区画されています。**Victory Park** は、その中央部に、ほぼ正方形に大きな地域を占めています。人口11万人の町にしては、不釣り合いなくらいに大きな公園です。道路は広く、少なくとも片側は駐車スペースが確保されています。その他に何箇所か駐車場が用意されているので、駐車する場所を探すことは難しくありません。

公園の周りで、まず目につくのは、巨大な図書館 **Carpenter Memorial Library** です。これは19世紀に建てられた、石造りの建物です。あいにく、私が訪問した時は、閉館中でしたので、中を見ることはできませんでしたが、その大きさに圧倒されます。その隣にあるのが美術館群のひとつである、**Emma B. French Hall Gallery** です。シンプルですが潇洒な建物が、地元の郷土史研究会のアーカイブ（資料館）です。これで分館というのですから、本館はどれほど大きいのでしょうか。

歴史博物館も大きな白亜館で、なかなかの建物です。これに隣接しているのが中央郵便局です。派手さはありませんが、周りの雰囲気になじんでいます。



巨大な図書館 Carpenter Memorial Library



特別展を開催中の Emma B. French Hall Gallery



ひととき目立つ存在の歴史博物館



周りに溶け込んでいるマンチェスター中央郵便局



Manchester Historical Association (郷土史研究会) の分館

公園の側で、ランドマーク的に建っているのが、St. Joseph Cathedral です。この建物は、ニューハンプシャー州で最大の教会で、カトリックの司教座が置かれています。1869年の建設となっていますが、最近大規模な保全工事を施したとのことで、古色蒼然というわけではありません。司教座というのは、カトリック教会における州政府のような機能を持っており、関連する機関と建物が広大な敷地の中に収容されています。下の写真は、教会付属の図書館で、かなり古いものです。一般にも公開されています。



St. Joseph Cathedral の外観とミサの様子



教会付属の図書館、とても古い建物です。

公園の周りには、他にも多くの宗派の教会が建ち並んでいます。全部を見て回るのは、1日ではとても無理ですので、その一部だけをご紹介します。



左から順に、Grace Episcopal Church, First Baptist Church(1871), St. Ann Catholic Church



洒落た店が並ぶダウンタウンのショッピングモール

公園地区から、西に向かうと、ダウンタウンが広がっています。建物の多くは19世紀のレンガ造りですが、リフレッシュして鮮やかな色をしているので、とても洒落た感じがします。古いビルはだいたい高さが揃っていて、3階建てか4階建てです。多くのビルでは、一階がお店やレストランで、上の階はアパートやオフィスになっているようです。それに加えて、地下のスペースも、店舗に使っているところが多いようです。最近郊外に作られる大型ショッピングモールに入っているお店は、全国ネットのチェーン店が多く、だいたいどこに行っても同じような顔をしています。ところが、マンチェスターのダウンタウンのお店は、なかなかユニークで個性的なものが多く、ウィンドーショッピングだけでも結構楽しくなります。



歩道のテーブルでお茶を楽しむ。 カラフルなパーキングメーター

ダウンタウンのメインストリートの歩道は広いので、余裕があります。天気が良

ければ、レストランやカフェは、表にテーブルを出して、客は外を眺めながら食事やお茶を楽しむことができます。これは、パリのシャンゼリゼやボストンのバックベイと同じです。ただ、お店の客が歩行者を見ているのか、それとも見られているのかは定かではありません。朝起きて、まずダウンタウンのカフェでゆっくりと新聞を読みながらコーヒーを楽しむ、という生活スタイルを持つ人々が少なくないようです。ここでは時間がゆっくりと流れていくのです。



マンチェスターの市役所と頭にクラウンをいただく時計塔

マンチェスターの市役所はダウンタウンのほぼ中央にあります。比較的小ぶりの地味な建物で、3階建てのレンガ造りです。もっともレンガ造りは、前の半分だけで、後ろ半分は白いコンクリートの4階建てです。おそらくマンチェスターに市政が敷かれた19世紀にレンガ造りの部分が建設され、20世紀になって手狭になったので、増築したのでしょう。

地味な建物に、一点豪華さを出しているのが前面の時計塔です。塔頂部が八角形になっていて、そのコーナー部にポールが立っています。このため、塔頂部が王冠（クラウン）のように見えるので、マンチェスターはクラウンシティーというニックネームも持っています。



市庁舎の南側に立ちはだかる高層ビル

ところで、この市庁舎を背面から見ると、全く異なる景色が現れます。それは、市庁舎の南側に建てられた、20階建ての近代的な高層ビルです。まるで、市庁舎の視界を遮るかのように、仁王立ちしています。クラウンの時計塔は霞んでしまい、全く目立たない存在になってしまいます。しかも、19世紀の風情を残す、マンチェスターのダウンタウンの中で、全く異質な存在で、違和感は否めません。いったい誰が計画し、誰が建設の認可を出したのでしょうか。センスの無さを疑います。これで歯止めがなくなり、高層ビルが林立するような景色は思い浮かべたくないものです。

最後は少し寂しい話になってしまいましたが、マンチェスターの紹介はいかがでしたでしょうか。19世紀に綿工業のブームがあったとはいえ、当時人口7万人足らずの地方小都市がこれだけの文化を作り上げ、現代に引き継いでいるということは尊敬に値するのではないのでしょうか。